

**導入 3 : 科学・こころ・宗教**

南山シンポジウム(5月12日(金)~14日(日))の報告として

## &lt;プログラム&gt;

## ・オリエンテーション

「科学・こころ・宗教」プロジェクト趣旨説明      ポール・スワンソン

## ・セッション

1. 日本における「科学と宗教」問題      横山輝雄  
    コメント      山本祐靖2. 医療における多様性と“やさしさ”      富田直秀  
    人間と機械の新しい関係 - 心を持った機械は作れるか？    コメント      橋本周司  
    芦名定道3. 心、目的指向的行動、前頭連合野      田中啓治  
    シミュレーション文化      佐藤哲也  
    コメント      田中 裕4. 「科学と宗教」・「科学とこころ」 - キリスト教の立場から  
    山本祐靖  
    心、科学、宗教の対話      三田一郎  
    コメント      小林傳司

## 5. オープン・ディスカッション

## &lt;シンポジウムの論点&gt;

## 1. 宗教と科学の接点としての「こころ」

・「宗教と科学」問題は、キリスト教文化圏的問いか？

自然神学的な問題設定

理論物理と工学・応用物理との意識のずれ

東洋・日本からの発信はいかにして可能か？

・「宗教と科学」問題と「宗教者と科学者」問題との区別と関係

## 2. 「こころ」、「科学」、「宗教」とは何か

こころ：

「spirit(精神)」の動きや「will(意志)」の衝動だけでなく、「mind(思考)」の合理的な働きや「heart(心情)」の情動的な感情も含む多面的な価値であり、.....統一のな

かの多様性、多様性のなかの統一を意味する。

「心は目的指向的に行動を制御する精神活動の総体のことである」

反射運動 / 複合運動 / 本能運動 / 習慣運動 / 目的指向的運動

「ゲーデルの不完全性定理」「宇宙には、人間の創り出した科学の世界を取り囲む外系（環境）が存在すること」、「森羅万象」=「有形物」、「こころ」、「意識」、「考える」というものを含んでいないのではないか」

問題：こころは、自然科学的理解の内側か外側か？

脳とこころ（志向性）との関係

志向性としてのこころ：過去と未来への志向性

古くて新しい問題

### 3. 「宗教と科学」問題の4類型

対立 / 分離・相互不干渉 / 対話 / 統合

日本（東アジア）における状況は、「分離・相互不干渉」

近代日本では、宗教は公共世界における力を失ってしまった。

cf. 欧米

「仏教と科学の闘争」はほとんど存在しない

「心の科学」が相手であったとすればどうであったか

< 第二セッションとの関係で >

#### 1. 共通の問題

・「科学とこころ」をめぐるセッション、各報告では「宗教」という視点、宗教との関わりはテーマ化されていないが、それとの関連へと議論を深める。

・近代的な機械論的要素主義から全体論へ

やさしさ・多様性・ネットワーク

感性・身体・心

社会学は心理学に還元できない、レベルが異なる

・この現代科学の動向は宗教とどのような関係性を持ちうるのか

東洋思想との関わり、フリチョフ・カブラ

ポール・デイヴィス 『宇宙はなぜあるのか - 新しい物理学と神 - 』岩波書店

Paul Davies, *God and the New Physics*, J.M.Dent & Sons 1983

#### 2. 富田直秀 「医療技術における多様性と“やさしさ”」

(1) 「やさしさ」と規範性 >

・「やさしさ」とは何か

「やさしい行動」と本質的な「やさしさ」とは異なる」、「目的が機能として記述されなくてはならない」、「その記述作業には」、「主観や時には思いこみが不可避免的に混入する」、

「何を機能として選択するか」

「機能の選択」について、単なる思いこみ以上の規範的な議論は必要ないのか、そこで宗教は場を持たないか

より具体的な場面で考えることが有益

たとえば、教育とのアナロジーで考えればどうなるか  
患者の立場、インフォームドコンセントとパターンリズム

・「多様性」の問題

多様性は価値的か？

種の保存（種の多様性）と個の保存との対立

種の多様性か個の多様性か、どちらが優先すべきか、などなど

（２）全体論

・「健康」とは

健康は全体論的概念か？

「要素を選び出し」「効率的に扱うばかりでなく」、「多様性全体を受け入れる環境」とは、全体論的な主張と考えてよいか

全体への視野と要素への視野

多次元的統一体としての生

3．橋本周司「人間と機械の新しい関係 - 心を持った機械は作れるか？ - 」

（１）心を持った機械の行方

・「感性的な情報」とは、感性的な事柄を情報化するとい意味か

・「気の利いた機械」:「知性と感性が必要」「身体を持たせて、自分で規則を覚えさせる」

将来的な見通しとしては、心を持った機械と人間のロボット化とは、どこかで交わるのか。現在における機械と人間との中間形態？

この中間形態の存在者は、宗教を持ちうるか？

・未来社会における新しい別の文明形態の問題

・自律型のロボット

行動戦略を自律的に獲得できる、それを別の個体へ引き継がせる

自由と伝統

つまり、文化の条件

ロボットは文化を、そして宗教を持ちうるか

・アシモフ三原則に変わる倫理規定はどうなるか、それをロボット自身が生み出すことは可能か、つまり、ロボットは倫理の主体たり得るか、鉄腕アトムの世界

( 2 ) 心とは、全体論

・心とは何か

心は脳に還元されるのか

「多分に哲学的」という問題は、工学とどのように関わるのか

志向性の問題、自己参照性のメカニズム

cf. 自己修復、自己複製

・「心を持った」と「心を持ったように見える」との違い

・迷う機械は可能か？

決定論的なメカニズムではない仕組み

脳の決定論的なメカニズムと心の非決定論的な振る舞いとは、レベルの違いの問題？

・全体論：物質 / 生命 / 心

諸要素の振る舞い・法則と全体としての振る舞い・法則

自然的で全体論的な神（宇宙の全体をその身体とするような精神性、進化の頂点としての神）

心を脳の全体論的なパターンであるとすれば、有機体脳以外の基体、たとえば無機的脳に移植可能か